KIORITZ Green

グリーンポータブル動噴

取　扱　説　明　書

GEP2

このたびは、グリーンポータブル動噴をお買い上げ頂き、厚くお礼申し上げます。

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

2001/05

はじめに

ご挨拶

・グリーンポータブル動噴をお買い上げいただき、ありがとうございます。

用途

・この動噴は、軽量・小型に製造されたガソリンエンジン付噴霧機です。

・この動噴は農業機械・自動車などの洗浄、および家庭用・農業用などの薬液噴霧に使用するものであり、目的以外に使用しないでください。

・機械を改造しないでください。

・整備不良の機械や、改造した機械は危険ですので使用しないでください。

取扱説明書について

・この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう､よく読んで理解してください。説明を分かりやすくするため、使用しているイラストは現品と異なる場合があります。

・単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

・この取扱説明書は、いつでも読めるように必ず保管してください。
この取扱説明書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。

貸与、譲渡

・この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

おことわり

・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。

・本製品は一部部品の組立作業が必要となります。

・ご不明なことやお気付きのことがございましたら、（株）共立 グリーン事業部にご相談ください。
電話：０４２８－３２－６１３３

目　　次

はじめに 2
警告表示マークの意味 3
各部の名称 4
　各部の名称とその機能 4
組立 5
正しい作業のために 5
　作業者の体調 5
　保護具 6
操作方法 7
　燃料の取扱い 7
　エンジンの始動と停止 8
　噴霧作業 10
　薬液 10
点検・整備 11
　整備の目安 11
　点検要領 11
　キャブレタの調整 12
故障診断と対策 13
保管 14
　長期保管（６０日間以上） 14
仕様 15

警告表示マークの意味

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する重要な注意事項です。

- この取扱説明書で解説されている機械には、下表の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前にラベルの意味を理解してください。
- 万一、ラベルが摩滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、「各部の名称」に指示してある箇所に貼り、常にラベルが読める状態を維持してください。

警告表示ラベル

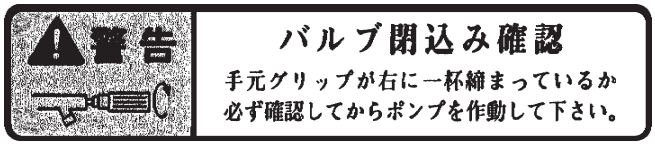
⚠ 警　告

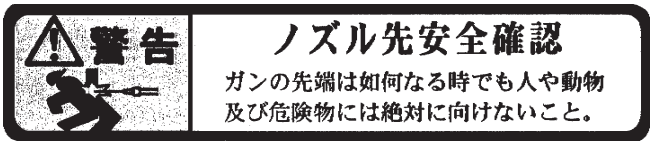
排気ガスに注意

室内（ハウス等）および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満し、人体に有害です。

⚠ 注　意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

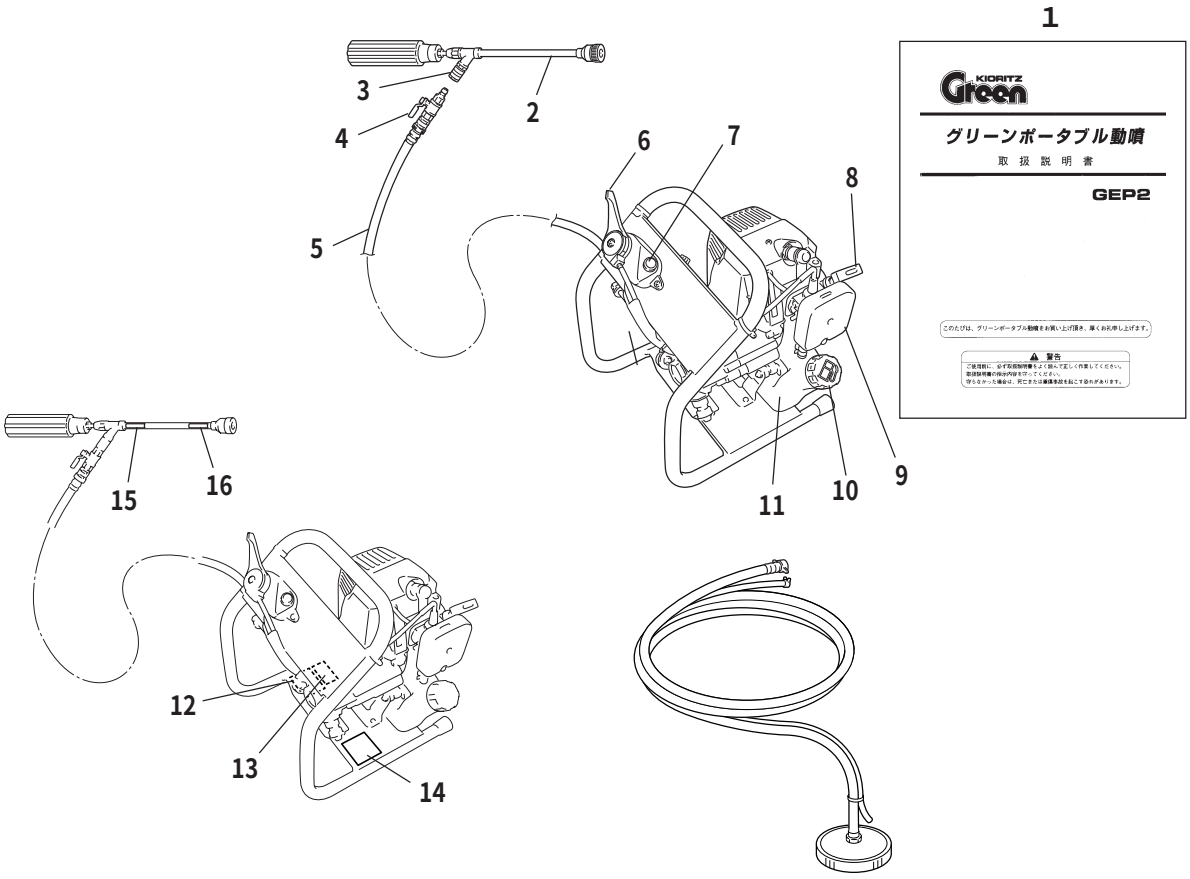




⚠ 注　意

- 作業中は、かならず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。
- 農薬をあびるおそれがあります。
- 使用農薬の取扱説明書を読んで正しく使用してください。

各 部 の 名 称



各部の名称とその機能

１．取扱説明書 —— 機械をお求めになったとき必ず付いています。機械を使用する前に必ず読んでください。また正しい操作技術を再確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に、必ず保管してください。

２．小型鉄砲ノズル —— 薬液を霧化するためのものです。

３．ワンタッチカプラ —— ホースとノズルをワンタッチで着脱します。

４．リキッドコック —— 噴霧を吐出、停止するバルブです。

５．噴霧ホース —— 薬液をノズルパイプに送るホースです。

６．スロットルレバー —— エンジン回転数を調節するためのレバーです。

７．ストップスイッチ —— エンジンを停止するときのスイッチです。

８．リコイルスタータ —— エンジンを始動するとき使用します。

９．エアクリーナ —— エンジンに供給される空気をきれいにします。

１０．燃料タンクキャップ — 燃料タンクを密閉するふたです。

１１．燃料タンク —— 燃料を入れる容器です。

１２．警告ラベル —— エンジンの排気ガスは有毒です。屋内など換気の悪い場所で使用しないでください。

１３．注意ラベル —— ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

１４．注意ラベル —— 作業中は必ず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。農薬をあびないように注意してください。使用する農薬の取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。

１５．警告ラベル —— 手元グリップが右に一杯締まっているか必ず確認してからポンプを作動してください。

１６．警告ラベル —— ガンの先端は如何なるときでも人や動物および危険物には絶対に向けないこと。

組　　立

- 機械を改造しないでください。
- 整備不良の機械や、改造した機械は危険ですので使用しないでください。

図１

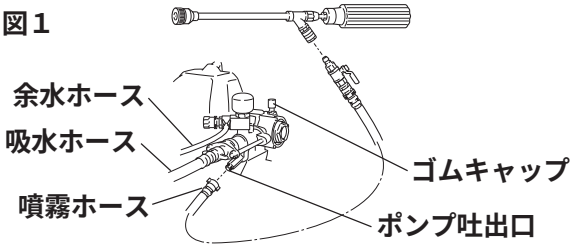
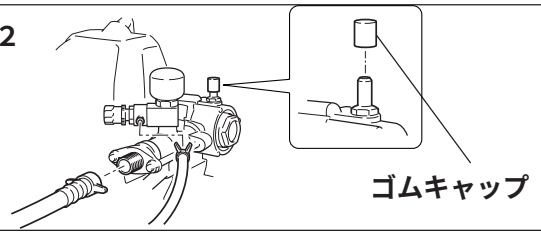


図２



梱包を開けたらまず付属品の欠品がないか確認してください。（１５ページの付属品一覧参照）

1. 噴霧ホースをポンプ吐出口に組付けてください。（図１参照）
2. 余水ホース（締付けバンド付き）、吸水ホース（ストレーナ付き）をポンプにしっかり組付けてください。
3. リキッドコック、ワンタッチカプラ、小型鉄砲ノズルを噴霧ホースの先端にしっかり組付けてください。
4. ポンプクランクケース上部のゴムキャップは、輸送中のオイル流出防止用です。ポンプを使用する前に取外してください。（図２参照）

正しい作業のために

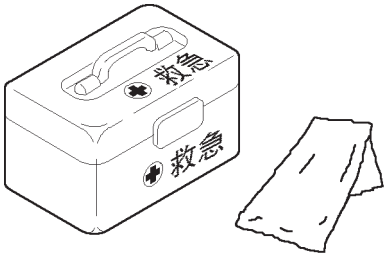
⚠ 警　告

- 機械が不適切に使われたり、あるいは使用上の注意を守らないとき、重大事故の可能性があります。
- 使用する薬液に直接触れることを避けてください。薬液被覆時の緊急処置と同様、薬液の警告、薬液の取扱説明書の注意事項をよく読んでください。
- 機械を運転するときは、適切な衣類と正しい保護具を身につけてください。

図３



図４



救急箱　　タオル、てぬぐい

⚠ 注　意

- 機械を操作する人は心身ともに健康でなければなりません。
  子供には使わせないでください。
- 夜間や天候不良などの視界の悪いときは作業をしないようにしてください。

作業者の体調

- 疲れているときは、機械を使用しないでください。もし、作業中に疲れた場合は作業を中断し休憩してください。気分の悪さや疲れが続くようでしたら、医者に相談してください。
- 酒を飲んでいる人、薬物の影響がある人は、機械を操作しないでください。視覚や敏しょう性、判断力に影響をおよぼします。
- 妊娠している人、運転が未熟な人、負傷中などで薬液の影響を受けやすい人は機械を操作しないでください。また薬液に触れないでください。

ケガへの備え

- 万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
  出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。
- 応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

図１



図２

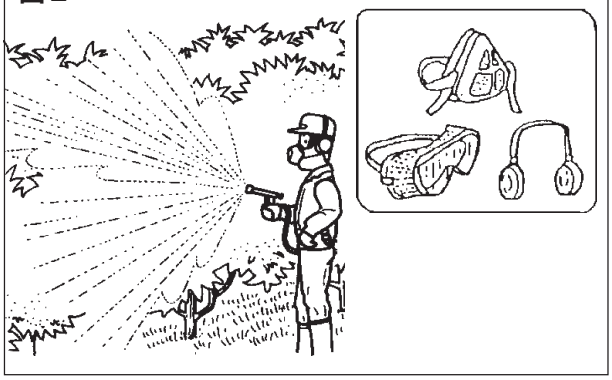
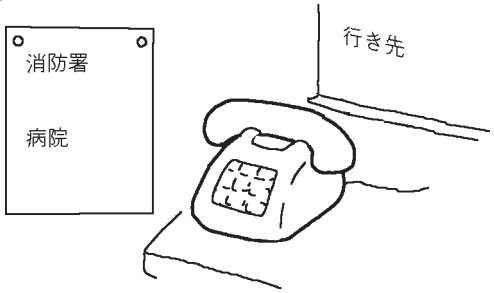


図３



保護具

身体を保護する衣服

足や体がむき出しにならないような、耐薬品性のある作業衣を着用してください。衣服はボタン、ファスナを完全にし、裾じまりや袖じまりをよくしてください。フリルや飾りヒモは機械などに絡まる原因になります。ネクタイ、だぶついた服、宝石類は着用しないでください。髪の毛は肩より上でまとめてください。

目の保護

目の保護に保護めがね（ゴーグル）を着用してください。日常、めがねを使用している人は、そのめがねの上から保護めがね（ゴーグル）などの目を保護するものをつけてください。

頭部の保護

作業帽または防護頭巾を使用し頭部や首を保護してください。

耳の保護

長時間大きな音を聞いていると聴覚が弱くなったり、聞こえなくなったりする原因となります。耳覆い（イヤーマフ）や耳栓などの聴覚を保護するものを着用して騒音から耳を保護してください。

手の保護

ゴム手袋またはビニール手袋を着用してください。直接薬液に触れないでください。

脚全体の保護

底に滑り止めのあるゴム長靴などをはいてください。つま先のあいた靴を履いたり、裸足で機械を使用してはいけません。

身体の保護のためのその他の事項

- 保護用の衣類は汗をかき、疲労を増します。
  気温が高いときは作業を中止し気温が下がってから作業をしてください。
- 農薬噴霧作業のときは防毒マスクを着用し、農薬を吸い込まないようにしてください。
  付属の防除マスクは防毒マスクではありません。
- 万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
  特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。
- 単独で作業する場合、どこで作業を行っているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れない場合の対処として有効です。
- 作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。

操　作　方　法

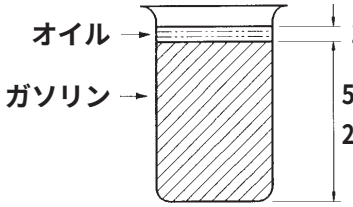
⚠ 警　告

・引火しやすいので、燃料の取扱いは火災に充分注意してください。
燃料の補給中にタバコをすったり、火花を出したりしないでください。
・エンジンがまだ熱いときや、エンジンをかけたままでの燃料補給は絶対にしないでください。
・作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず身体の安全を確保してください。

⚠ 注　意

燃料を補給する際はポンプを使用し、機体が安定した状態で注油口からこぼれないように注意して補給してください。
傾斜地では補給しないでください。
機械に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。

図1

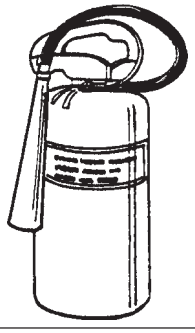


ガソリン	2サイクルエンジンオイル	
L	mL	
	50：1	25：1
4	80	160
8	160	320
20	400	800

図2



図3



シャベルまたは消火器を用意する

燃料の取扱い

重　要

・混合燃料の長期保管は劣化しやすいので、燃料は使用する分量だけ混合してください。
燃料の混合は、機械の燃料タンクで行わないでください。
・燃料タンク、燃料タンクキャップ、燃料タンクブリーザ、燃料パイプなどは使用前に点検し、異常が発見された場合は使用せず交換してください。
・ＪＡＳＯ性能分類：2サイクルエンジンオイルの潤滑性能順にＦＣ、ＦＢ、ＦＡの３種類に分類し表示します。共立純正２サイクル専用オイルは「ＦＣ」で、混合比「５０：１」で使用します。

● 本機の燃料にはレギュラーガソリンと、２サイクル用エンジンオイルを混合した燃料を使用してください。
正しくない燃料はエンジン機能不良の原因となります。
● 燃料の混合比は、２サイクルエンジンオイルの種類により下記の通り使用してください。
・共立純正２サイクル専用オイル ;[５０：１]
ＪＡＳＯ性能分類　ＦＣ
・２サイクルエンジンオイル　;[２５：１]
ＪＡＳＯ性能分類　ＦＢ、ＦＡ
● ガソリンとオイルの混合はガソリン用の容器を使用し、よく混合してください。
● 燃料容器には、外気との間に圧力差が生じています。燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。
● 燃料タンクに燃料を補給するときは、屋外の舗装されていない地面の上で行ってください。屋内では燃料を補給しないでください。
● エンジンがまだ熱いときや、エンジンをかけたままでの燃料補給は絶対にしないでください。
● 必ず規定レベル以下に補給してください。
● 燃料を補給した後は、燃料タンクキャップをしっかりと締めてください。
● エンジンをかける前に、燃料をいれた場所から３m以上移動してください。
● 燃料タンクに燃料が残っている状態で機械をしまわないでください。燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。
● 自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
● 草木などに類焼しないよう注意してください。
● シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

エンジンの始動と停止

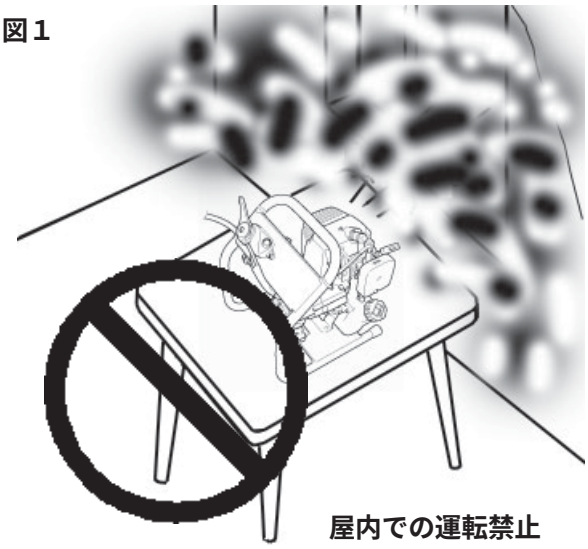
⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。屋内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

⚠ 注　意

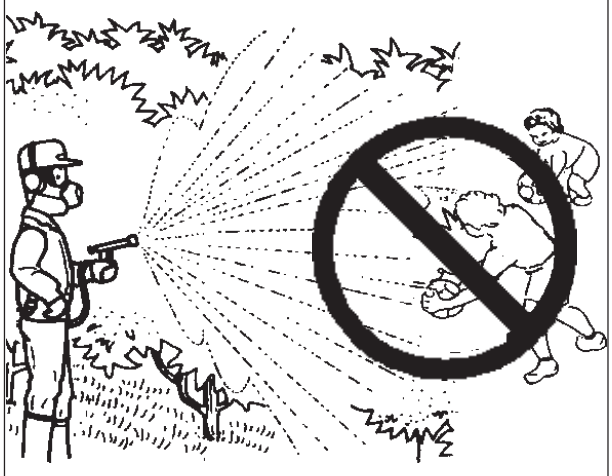
- エンジンを始動する前に、ボルトやナット、ネジが締まっているか確認してください。
  ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。
- 燃料が漏れていないか確認してください。
- 機械の周囲は充分に広くとり、人、動物は近づけないこと。また、障害物がないことを確かめてから始動してください。
- エンジンが停止しないときはチョークを閉じると停止します。機械を再び使用する前に、ストップスイッチの点検をしてください。

図１



屋内での運転禁止

図２



重　要

- 機械は、常に水平に設置してください。傾斜させると、吐出量が不安定になります。
- 燃料が漏れている場合は、エンジンを始動せずにお買い求めの販売店にご相談ください。
- スタータグリップを引くときは、まず軽く引き出し更に素早く引いてください。引き紐の２／３以上は引き出さないでください。
- スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。
- 機械は薬液タンクと同じ高さか、やや低い平坦地に設置してください。
- 必ず薬液あるいは清水に吸水ホースストレーナおよび余水ホースの先端を入れてからエンジンを始動してください。
- 本機の防振構造はエンジン、ポンプを防振ゴムで浮かせている構造ですので、エンジン始動時のリコイル操作は必要以上の力を加えず操作してください。
- 薬液がノズルから出なくなったらすぐにエンジンを停止してください。薬液タンクがカラになったら、エンジンを運転しないでください。
- キャブレタは、正しく工場で調節されております。必要でない限り、自分で気化器を調整しないでください。調整は、お買い求めの販売店で行ってください。

- エンジンを始動するときは、地面に機械をおいてスロットルレバーを低速位置にしてください。燃料管が折り曲げられているときは、エンジンを始動しないでください。
- 足場の悪い所ではこの機械を使わないでください。
- 機械の始動時、また使用時は、その場所に他の人、また、ペットを近づかせないでください。
- 噴射ノズルを人や動物へ向けないでください。
- この機械を扱う際、高温によるやけどを防止するため、手や体をマフラやシリンダなどの高温部に触れないようにしてください。
- 整備の良くない機械や自分勝手の改造品を取付けた機械を使わないでください。
- 夜遅くまたは朝早く近隣の人に騒音で迷惑をかけるようなときは、この機械を使うことを避けてください。
- マフラが、正常に機能していることを確認してください。機械が適切に作動するように、空気吸入部分とエアフィルタもチェックしてください。

図１

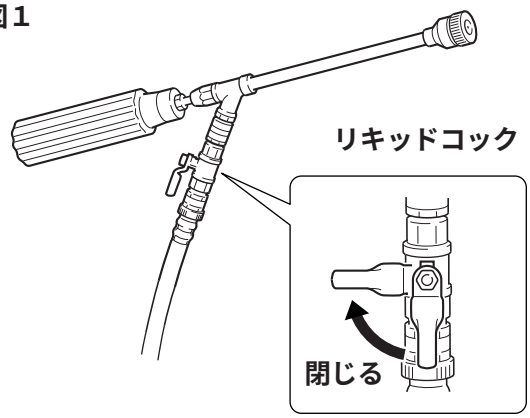


図２

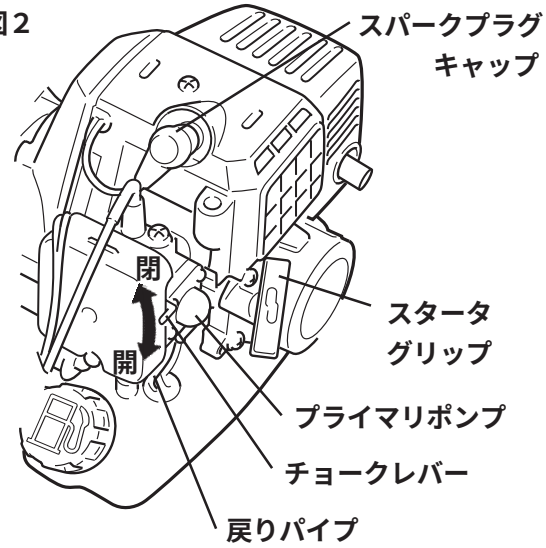
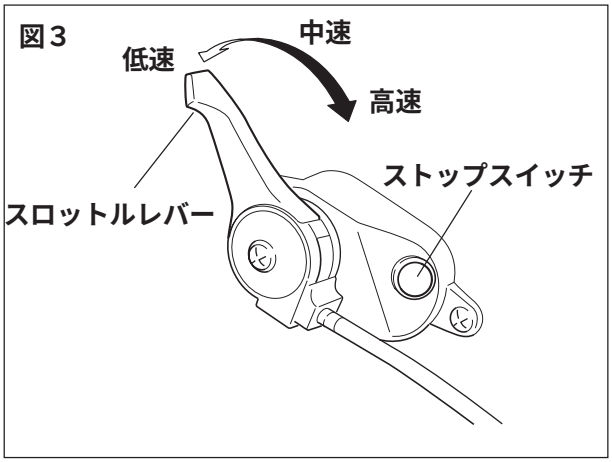


図３



エンジンの始動には、冷えたエンジンの場合と暖まっているエンジンの場合があります。エンジンの状態を確認の上、各々の始動の手順に従って始動してください。順序を間違えると始動が困難になる場合がありますので注意してください。

冷えたエンジンの始動

1. エンジンを始動させる前にリキッドコックを閉じてください。（図１参照）
2. ポンプの破損防止のため、薬液に吸水ホースストレーナおよび余水ホースの先端を入れてからエンジンを始動してください。
3. チョークレバーを［閉］の位置にスライドさせ、チョークを閉じてください。（図２参照）
4. 燃料戻りパイプに燃料が見えるまでプライマリポンプを押してください。
5. スロットルレバーを中間位置にしてください。（図３参照）
6. 機械をしっかり押え、スタータグリップを最初の爆発音がするまで数回引いてください。
7. 爆発音がしたらチョークレバーを[開]にして、更にスタータグリップを引き始動させてください。すぐにエンジンが始動したときは、チョークレバーを徐々に［開］に戻してください。
8. 始動したら低速のままでしばらく暖機運転をしてください。

暖まっているエンジンの始動

1. スロットルレバーを[低速]位置にしてください。
2. チョークレバーは［開］の位置にしてください。
3. スタータグリップを２～３回引き、エンジンを始動させてください。
4. 約４回スタータグリップを引いても、エンジンが始動しないときは、エンジンが冷えている場合の始動と同じ方法で行ってください。

エンジン停止

1. スロットルレバーを[低速]位置にし、エンジンをアイドリング（低速回転）状態にして、ストップスイッチを押してください。（図３参照）
2. 緊急の場合は、直ちにストップスイッチでエンジンを止めてください。
3. エンジンが停止しないときは、チョークを閉じてください。エンジンは失速し停止します。機械を再び使用する前に、お買い求めの販売店にストップスイッチの点検と修理を依頼してください。

長期に機械を使用しないときは、必ずスパークプラグキャップを抜き、エンジンがかからないようにしてください。（図２参照）

重　要

・長時間時間にわたる低速回転（クラッチが滑っている状態）での作業は、クラッチ焼損の原因となります。
・ポンプは絶対にカラ運転（吸水しない状態での運転）しないでください。ポンプのパッキン類が異常摩耗し、機能しなくなります。

図１

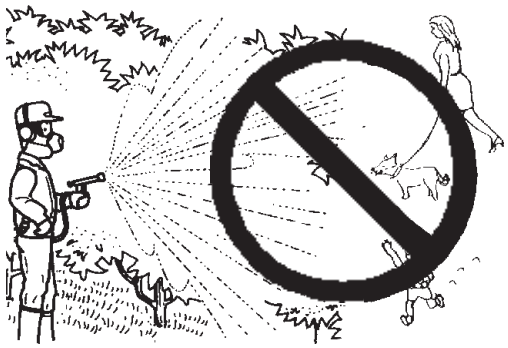


図２

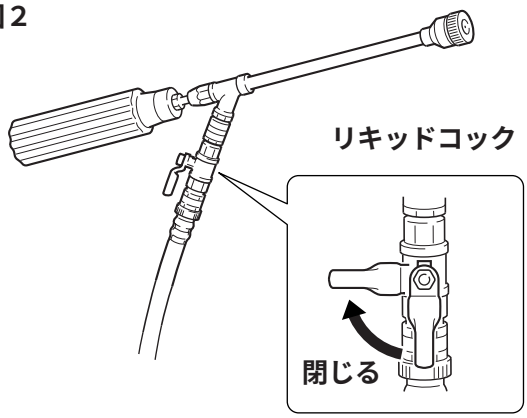
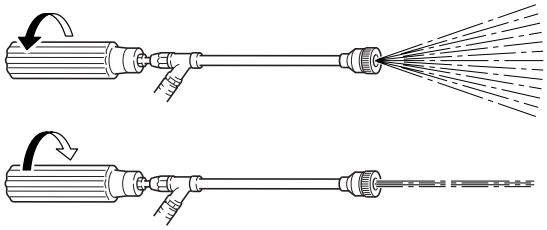


図３



⚠ 危　険

・薬液に直接触れたり、口にしないでください。薬液には人間や動物にとって極めて有毒なものがあります。薬液の使用を誤ると、重度の中毒症にかかったり、死に至ることがあります。
・薬液は内容を明記した箱に入れ、子供の手が届かない鍵の掛かる場所に保管してください。誤って飲み込むと死亡する恐れがあります。

噴霧作業

傷害事故を防止するため

・薬液を被ることのないよう、風の強い日や雨の日は機械を使わないでください。
・仕事を始める前に、風向きをみてください。ドアや窓の開いている家、自動車、ペット、子供、あるいは薬液による傷害を起こすようなものには、薬液は噴霧しないでください。
・噴霧は、風下に向かって行ってください。
薬液の分散による損失を少なくして薬液の噴霧効率を高めるため、風のない温度が安定している朝、または夕方を選んで作業してください。
・農薬噴霧作業中は喫煙、飲食をしないでください。農薬を吸引したり、食べ物に付着した農薬が体内に入る恐れがあります。
・噴霧作業終了後、薬液や機械の後かたづけが終わったら、手、顔など外部にさらされた場所を石けんでよく洗い、うがいをし、入浴をして全身をよく洗ってください。作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。
・農薬噴霧の後は飲酒をひかえてください。農薬を吸引した場合、体内の酵素の働きが低下します。このようなときにアルコールを飲むと、更に酵素の働きが低下し、疲労の回復が遅くなります。

機械の操作

・リキッドコックは噴霧作業を始めるまで必ず閉じておきます。（図２参照）
・エンジン回転数を上げた後１分運転しても吸水しないときは、リキッドコックを開けてください。それでも吸水しないときは１３ページの「故障診断と対策」を参照してください。
・吐出量が多いノズルを使用するときはエンジン回転数を上げ、吐出量が少ないノズルのときはエンジン回転数を下げて作業を行ってください。
・有効噴霧ができる程度の低い回転数で作業をしてください。本製品のポンプには、エアチャンバが装備されており、吐出の脈動が軽減され、低い回転でも安定した噴霧作業ができます。
・付属の小型鉄砲ノズルは、握りを左に回していくと、広角噴霧から直進噴霧に変わっていきます。直進の到達距離は、上方で５m、横方向で８mです。野菜などの近距離防除には広角で、立木などの遠距離防除には直進で使用します。防除対象物に合わせて握りを操作して、より有効な噴霧作業をしてください。（図３参照）
・噴霧作業終了後は、２～３分清水で運転し、最後に清水を排出して、ポンプ内に薬液を残さないようにしてください。特に、除草剤を使用したときは、念入りに洗浄してください。

薬液

・薬液を取扱う際には、その薬液の説明書に記載されている注意事項と取扱い方法に従ってください。本機や薬液に関する知識を持たない人や子供などが取扱うことがないようにしてください。
・薬液の容器は薬液の取扱説明書で定められた方法で処理してください。

点　検・整　備

⚠ 注　意

点検・整備をする前に必ずエンジンを停止し、冷えた状態でプラグキャップを外して作業してください。

整備の目安

● 製品を調子良く、安全に使用するために定期的に点検・整備をしてください。

整　備　箇　所	整　　備	掲載ページ	使用前	毎　月	毎　年
エアフィルタ	清掃 / 交換	11	●		
燃料フィルタ	点検 / 交換	11		●	
燃料管	点検	―		●	
スパークプラグ	点検 / 清掃と調整 / 交換	12		●	
キャブレタ	点検	―			●
シリンダフィン	点検 / 清掃	12	●		
マフラ	点検 / 清掃	12			●
スタータロープ	点検 / 清掃	―	●		
燃料系統	点検 / 修理	―	●		
ネジ、ボルト、ナット類	点検、ネジ類の増し締め / 交換	―	●		

重要

・ エアフィルタが非常に汚れていたり、破損している場合は交換してください。
・ エンジン冷却風の入口や、シリンダフィンにゴミなどが詰まりますとエンジン焼き付きの原因となります。

図１

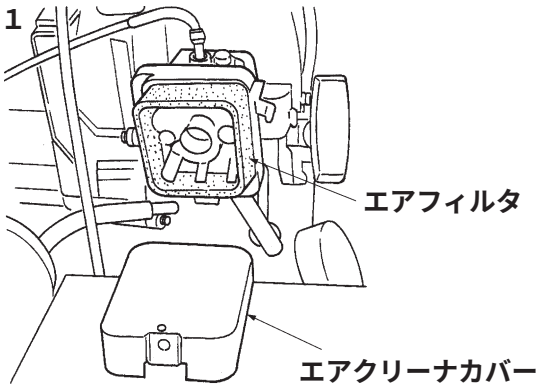
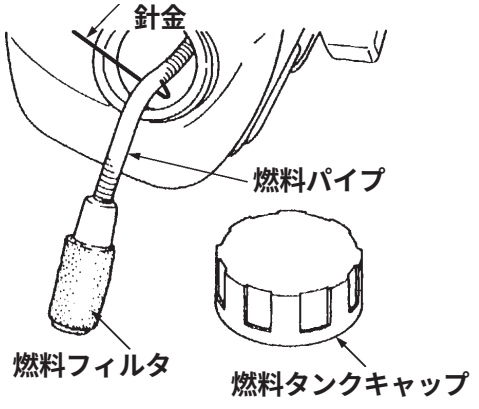


図２



点検要領

エアフィルタの清掃

ご使用前に点検してください。

1. チョークを閉じてから、取付ネジをゆるめ、エアクリーナカバーを外してください。
2. エアフィルタを外してください。
3. 汚れをブラシで落とすか、中性洗剤で洗ってください。洗剤を使用した場合は、充分に水洗いをし、よく乾かしてください。
4. エアフィルタを元の位置に取付けてください。
5. カバーを取付け、取付ネジを締めてください。

燃料フィルタの交換

ご使用前に点検してください。

1. 燃料タンクキャップを外してください。
2. 針金などで燃料フィルタを引っ掛け、燃料タンクの補給口から取出してください。
3. 燃料フィルタ部分が黒く硬くなっている場合は汚れていますので交換してください。
4. 燃料パイプから抜き取って新しい燃料フィルタと交換します。
5. 燃料タンクの補給口から燃料フィルタを入れて、燃料タンクキャップを締めてください。

図１

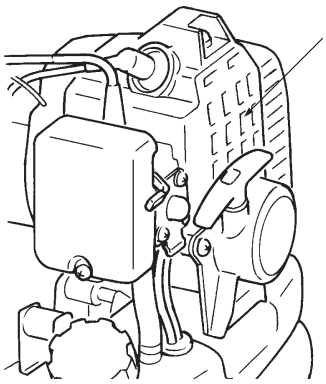


図２

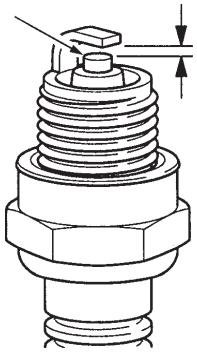


図３

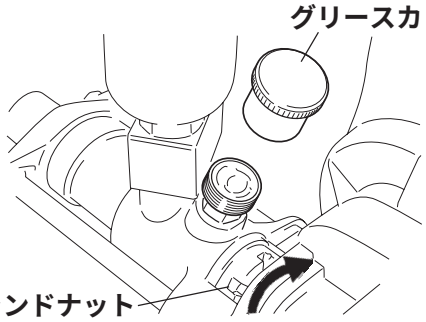
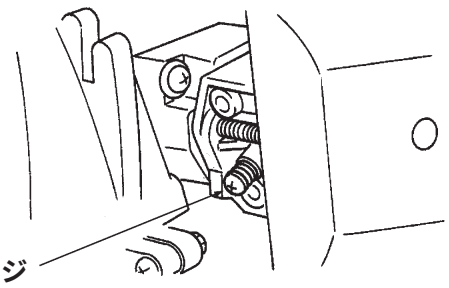


図４



冷却装置の整備

ご使用前に点検してください。

・ シリンダフィンの間のゴミと汚れを取除いてください。(図１参照)

・ エンジンの低部と燃料タンクの間にある冷却風の入り口の周りに付いた､ゴミなどを取除いてください。

マフラの整備

・ マフラのゆるみはガス漏れ､タール漏れを起こし､思わぬ事故につながりますので､増し締めしてください。

・ 排気出口のカーボンを除去し､マフラを掃除してください｡エンジンの性能を維持するために、掃除は定期的に行ってください。

スパークプラグの点検

月に一度は点検してください。

1. 付属のソケットレンチ（１９mm）でスパークプラグを外してください。
2. 電極が減っているとき、すき間不良のとき（正しいすき間は０．６～０．７mm＝ハガキ３枚分の厚さ)､また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新しいプラグと交換してください。(図２参照)
3. スパークプラグは､付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
   参考 ：締付けトルクは１４．２～１５．２N･m
   (145 ～ 155 kgf･㎝)です。

● 発火テストは､シリンダのプラグ穴の上ではしないでください。

ポンプ

・ 運転３０時間毎にグリースカップを半回転くらい増し締めしてください。(図３参照)
  中のグリースがポンプのVパッキンの潤滑をします。最後まで締まったときは共立純正ギヤケースグリースを補給してください。
  共立純正ギヤケースグリース
  部品番号：８９９５１３－４２９３０

・ ポンプから薬液が漏れるようになった場合は､Vパッキンが摩耗していますので､付属のソケットレンチでグランドナットを１／４～１／２回転増し締めしてください。(図３参照)

キャブレタの調整

・ 必要でない限り､キャブレタを調節しないでください。

・ 低速回転の調整が必要なとき､キャブレタの低速調整ネジを回してください。(図４参照)
  反時計方向に回すと､エンジン回転は低下します。

・ 調整してもエンジン回転不調の場合は､お買い求めの販売店へご相談ください。

・ エンジンを長い間使わないときは､燃料タンクとキャブレタから燃料を抜いてください。

故障診断と対策

故障内容			原因	対策
エンジンが始動困難、または始動しない				
クランクシャフトが回転する→	キャブレタの燃料 →	キャブレタに燃料がない	●燃料フィルタの詰まり ●燃料管の詰まり ●キャブレタの不良	●清掃 ●清掃 ●販売店へ
↓	シリンダの燃料 →	シリンダに燃料がない	●キャブレタの不良	●販売店へ
↓	↓ →	プラグが燃料で濡れている	●空燃比(空気と燃料の混合比)が濃すぎる	●チョークを開く ●エアフィルタ清掃／交換 ●キャブレタ調整 ●販売店へ
↓	スパークプラグ線端のスパーク →	プラグ線端でスパークが出ない	●電気的故障	●販売店へ
↓	↓ スパークプラグのスパーク →	プラグからスパークが出ない	●スパークギャップが不適切 ●カーボン(炭素)の堆積 ●燃料による汚れ ●スパークプラグの不良	●0.6～0.7mmに調整 ●清掃／交換 ●清掃／交換 ●交換
クランクシャフトが回転しない	↓		●エンジンの内部故障	●販売店へ
エンジンは始動する	持続しない、または加速不充分 ↓		●エアフィルタの汚れ ●燃料フィルタの汚れ ●燃料通路の詰まり ●スパークプラグの不良 ●キャブレタの不良 ●シリンダフィンの詰まり ●排気口／マフラの詰まり	●清掃／交換 ●交換 ●清掃 ●清掃、調整／交換 ●調整 ●清掃 ●清掃
↓	噴霧の異常ムラ ↓		●吸排水弁の詰まりか損傷 ●ワンゴムの摩耗	●分解／点検／交換 ●交換
↓	薬液ポンプの圧力が上がらない (細かい霧にならない) ↓		●調圧弁／弁シートの摩耗 ●Vパッキンの摩耗 ●ホースに穴や裂け目がある ●ノズル（噴板）の穴が大きすぎる ●本機に適当でないノズルを使用している (吐出量の大きいノズル)	●交換 ●増し締め／交換 ●交換 ●交換 ●交換
↓	薬液が全く出ない		●ゴミ・異物による薬液系統の完全な詰まり ●薬液タンクに液がない ●薬液ポンプの破損 ●吸水弁の固着	●清掃 ●補給 ●修理 ●吸水ホースを外し、弁をつついて固着を解除する

保　　管

⚠ 警　告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のある場所に保管しないでください。

重　要

この取扱説明書は、いつでも読めるよう保管してください。

長期保管（60 日間以上）

機械を長期間（60日以上）にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

1. **本機と噴霧ホースを清水で運転し、清掃してください。**

2. **本書に定められた定期的な注油と点検をしてください。**
   機械の全ての部分を検査し、調節してください。
   スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。
   ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。

   A. **必要ならば掃除をし、修理をしてください。**
   B. **サビ止めに金属部分には薄く油を塗ってください。**
   C. **ホースとパイプを取外してください。**

3. **燃料タンクを完全にカラにしてください。キャブレタやプライマリポンプ、燃料パイプに残っている燃料は、低速で運転して使いきってください。**

4. **スパークプラグを外し、その取付穴から大さじ１/２杯の、新しくきれいな２サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。**

   A. **スパークプラグの取付穴の上にきれいな布を掛けてください。**
   B. **スタータグリップを２、３回引いて、エンジンオイルをエンジンに行き渡らせてください。**
   C. **スパークプラグ取付穴からピストンの位置を確認してください。スタータグリップをゆっくり引き、ピストンが最も上のところで止めるようにしてください。**

5. **スパークプラグを取付けてください。**
   （スパークプラグキャップは接続しないでください。）

6. **機械を乾かし、子供の手の届かないホコリのない場所に保管してください。**

仕　　様

項　　目	単 位	GEP2
質量（燃料除く）	ｋｇ	６．５
容量 　燃料タンク	Ｌ	０．８
外形寸法（本体） 　長さ×幅×高さ	mm	315 × 295 × 320
エンジン 　形式 　排気量 　最大エンジン回転数（低圧締切時） 　アイドリング回転数 　クラッチ作動開始エンジン回転数 　キャブレタ形式 　点火方式 　スパークプラグ 　始動方式 　動力伝達方式	 ｍＬ ｒ／ｍｉｎ ｒ／ｍｉｎ ｒ／ｍｉｎ	 空冷２サイクル単シリンダ ２２．８ ６，５００ ２，７００～３，０００ ３，３００～３，９００ ＴＫ循環式 フライホイールマグネト：ＴＣＩ方式 ＮＧＫ　ＢＰＭ７Ｙ リコイルスタータ 自動遠心クラッチ
燃料 　混合比		・共立純正２サイクル専用オイル［５０：１］ 　ＪＡＳＯ性能分類　ＦＣ ・２サイクルエンジンオイル　　［２５：１］ 　ＪＡＳＯ性能分類　ＦＢ、ＦＡ
薬液ポンプ 　形式 　吸水量 　常用圧力（締切時）	 Ｌ／ｍｉｎ ＭＰａ （ｋｇｆ／ｃｍ²）	 横型一連作動式ポンプ ６．４ ２．５ （２５）
ノズル		小型鉄砲ノズル
噴霧ホース（内径×長さ）	mm×m	７．５×１０
付属品 　噴霧ホース 　小型鉄砲ノズル 　吸水ホース 　ストレーナ 　余水ホース（締付けバンド付き） 　リキッドコック 　ワンタッチカプラ 　ソケットレンチ（１０×１９） 　防除マスク 　取扱説明書 　保証書	 個数 個数 個数 個数 個数 個数 個数 個数 個数 個数 個数	 １ １ １ １ １ １ １ １ １ １ １

＊ この仕様は予告なしに変更することがあります。

株式
会社 共立

〒198-8711 東京都青梅市末広町1-7-2

グリーン事業部　０４２８－３２－６１３３

X750-002 65 0
X750 604-420 0